

1 開会の言葉（副校長）

2 校長挨拶

- ・1年間の取り組みについて報告をさせていただき、委員の皆様の御意見を伺いたい。
- ・学校運営協議会について説明させていただく。
- ・プライムアース EV エナジー株式会社原田様には、zoom で会議に参加していただく。今後、このような形でも地域とつながっていききたい。

3 学校評価より

(1) 成果と課題

①今年度の重点についての確認（副校長）

教育目標：「豊かな社会生活を実現できる浜名の子」

合言葉：笑顔・仲間・地域 スローガン：スローライフはまな

主な重点項目

【笑顔】・ヒヤリハットの共有

- ・教師も子どもも考える防災
- ・魅力ある食育
- ・授業研究とOJT研修
- ・個別の指導計画のとらえなおし
- ・教職員の意識改革（働き方、受容と共感）

【仲間】・児童生徒の主体性を大切にした授業づくり

- ・生徒主体の生徒会活動
- ・12年間を見据えた体づくりと性の指導
- ・各学部における自立活動の推進
- ・キャリア教育の充実
- ・知的障害と肢体不自由の児童生徒同士の関わり

【地域】・地域とつながる機会の創出

- ・近隣小中学校、高等学校との連携
- ・地域防災連携
- ・学校運営協議会に向けた準備

今年度ならではの課題（新型コロナウイルス感染予防）

- ・授業内容の制限
- ・行事の取組変更
- ・研修機会の減少
- ・地域に出る機会の減少

②小学部（吉澤）

学部目標：「周囲の人や物に関心をもち、進んで行動する力を育てる」

目指す児童像

【笑顔】・朝の元気タイムで歩く、走る（7分間）

- ・生活単元学習で宿泊や調理ができなかったが、上靴洗いや掃除など家庭生活や作業学習につながる活動に自信をもって取り組む
- ・自立活動は、課題別の縦割りグルーピング（情緒の安定、粗大運動、体幹、人との関わりなど）で9月から実施

- 【仲間】・生活単元学習での遊び(かくれんぼ)を通して、友達のまねをする、関わり、自分から楽しむ 休み時間の遊びにも発展
- ・科学遊びの単元で、遊びへの招待はできなかったが他学年にグッズを作ってプレゼント
- 【地域】・校内に掲示してある魚を探して見つける活動から校外やウォットへの広がり
- ・徒歩で近くの自動販売機や店舗への買い物学習
- ・自分でできることを増やす活動 家族から依頼された材料の買い物、家庭でそれを使ったカレー作り 家庭との連携
- ・コロナ禍でいつもとは異なる修学旅行 近くの店舗で当日のおやつを購入しておき、バス内で飲食 学校発で友達や教師が見送り

学部スローガン「わ」

- ・6年生がチェッコリダンスのリーダーになり、各学年にダンスを教える活動から行事や集会でのダンスに
- ・できないではなく、これならできるというアイデアを出して実施

③ 中学部 (寺田)

学部目標：「身近な社会に関心を持ち、自分らしさを発揮し、主体的に行動することができる力を育てる」

目指す生徒像

- 【笑顔】・コロナ禍でも心身のたくましさ
- ・養護教諭、看護師、保護者等との連携で安全な活動
- ・感染症対策については教師や生徒の意識の向上、業務スタッフによる消毒等でより安全に活動
- ・互いの良さを認め合う、安心感のある集団づくり
- ・意欲を引き出す学習、成就感につながる個々の実態に応じたスモールステップの課題
- ・振り返りを生かした防災再訓練
- ・今後の課題として、学習計画段階で想像力を働かせた危機管理、魅力のある授業づくり、考えて行動につながる防災訓練の実施
- 【仲間】・作業学習での取組 顔の見える相手に喜んでもらうために、得意なことを活かして、みんなで協力
- ・自立活動(なかま)での取組 目的をもって体を動かす 役割、みんなで
- ・集団生活の基礎づくり 縦割り学習での学び合い、育ち合い
- ・日々の授業改善で子どもの学び、成長を考える
- ・保健は共通理解のもと実施したことでより定着 保護者に保健だよりで発信
- ・今後の課題として、自立活動の充実(丁寧な実態把握でより個々の課題に迫る)、知肢合同授業や生徒、教師間の交流の進め方、生徒自身が目標設定し活動、自己評価できる授業づくり
- 【地域】・地域資源の活用(花火教室、校外で働く経験、校外学習)で本物の体験
- ・身近な職員や保護者の力を借りての学習
- ・情報機器を活用した交流
- ・今後の課題として、年間を通して学校や地域の役に立つ活動の実施(保護者や地域の方と共に)、家庭との連携(学校での学びをつないでいく工夫)

来年度に向けて

- ・コロナ禍での教育活動 目的の見直し、対策と学習の工夫、適応していく力
- ・ICT活用の進め方 環境整備と教師の指導力向上

④高等部（佐藤）

学部目標「将来の豊かな生活に向けて、目標と責任をもって、自分で考え主体的に活動できる力を育てる」 発信と協働

目指す生徒像 キーワード

【笑顔】たくましい心と体 穏やかにのびのびと活動

【仲間】仲間との関わりの中で 主体的に活動

【地域】家庭や地域の中で 自信をもって生活

実践の紹介

○作業学習を通して 地域の人や資源とつながりながら学習を深める

- ・トイレ掃除の外部講師、喫茶店へのまきの納品、近隣の農家から野菜作りを教わり評価をしていただく
- ・喫茶検定 ホテルで喫茶の接客 本物に触れる緊張感、満足感と達成感
- ・職場実習 地域の事業所の協力を得て 将来へつなげる

○豊かな生活に向けて

- ・毎週月曜日の1時間目にロングホームルームを設定（生徒指導、保健指導、防災学習、学級活動）繰り返しの指導 消費生活講座、身だしなみ講座、スクールカウンセラー等の活用
- ・学年合同授業（知肢連携）と自立グループの学習 人数増で来年度に向けて
- ・進路先について 内定の掲示

⑤成果と課題（副校長）

【笑顔】

○安全・安心

- ・ヒヤリハット、事故・けがの報告は前年度から1減
- ・児童生徒が自分で考えて避難行動をとることができたと感じる職員97%
- ・校内外講師による摂食・偏食、形態食研修による職員の専門性の向上

○教職員の専門的指導力向上

- ・OJTによる自主的な研修がスタート、継続的な取り組みにつなげることが課題
- ・個別の教育支援計画、指導計画の見直しをし、自立活動とのつながりを明確化
- ・仕事の偏り調整等で退勤時刻は早まったが、効率化やTT間の連携に課題

【仲間】

○主体性の発揮

- ・研修で身に付けさせたい力を焦点化したことで児童生徒が目標達成する姿が増えた。段階に応じた評価基準の設定が必要
- ・コロナ禍で生徒会だよりや海風祭プログラムなど自分たちでできることを考えて実践
- ・体幹トレーニングなどで基礎体力の向上

○関わる力と生きる力

- ・すべての学部で個に目を向けた自立活動の「時間の指導」の実践、さらに中身の充実に向けて研修と実践が必要
- ・教師がキャリア教育の視点をもって指導に当たることができた
- ・コロナ禍で十分な交流は難しかったが、それぞれの良さを生かした行事の実施
- ・

【地域】

○地域とつながる活動

- ・湖西市小中学校支援学級担当教員とのつながりの構築
- ・児童生徒の参加はなかったが、避難所開設訓練で連携を継続
- ・コロナ禍で学校運営協議会の準備が難しく、令和4年度に向けて準備を進める

【課題より】

◇仕事の効率化と時間外勤務に対する意識改革

- ・組織として、個人の意識改革に迫るための取組←心身ともに健康な状態で働く

◇風通しのよい職場環境

- ・互いに気持ちよく自分の意見を伝え合い、認め合える関係づくり

→仕事への意欲・やりがい

メンタルヘルス

不祥事対策

(2) 質問・感想 提言

①質問・感想

(委員A)・年度当初のコロナだからできないというところから、小中学校も特支もコロナと一緒にどうしたらできるかと考えるようになった。子どもたちにできる限りのことをしたいという思いは同じ。来年度は、さらに工夫をしながら行う中で、カットできるものもあるのでは。

- ・白須賀小学校に来年度から肢体不自由の支援学級を設置することになり、協力をしながらやっていきたい。

(委員B)・工夫して行われている。学園も餅つき大会ができず寂しかった。来年度どうするか考えていきたい。

- ・中学部作業班で購入したノートパソコンの台が大変好評。来年もぜひ声を掛けていただきたい。

(委員C)・毎回、感心している。分析、段階的に支援し、最後に育ちがあらわれている。教育はふれあいやつながりを大切にしているがコロナ禍とは相反する。その中でできることを工夫している。

- ・ヒヤリハットについては幼児教育でも力を入れている。詳細に分析をすることで事故につながる一歩手前で踏みとどまった。
- ・廊下の掲示、スチレン版画がとても素敵。

→(副校長) 図画工作、美術の指導も頑張っている。掲示は総務課で整備。

(委員D)・評価についてはしっかり分析ができています。

- ・職員の研修はぜひ予算をつけて積極的に行い、さらなる高みを目指してほしい。研修に出た職員がとても感動して帰ってくるという経験がある。先進のところに学ぶとよい。

→(副校長) コロナ禍で今年度はzoomによるオンライン研修も進めてきた。

(委員E)・zoomでの参加ができありがたい。

- ・コロナに振り回された1年で、様々な工夫が大変だったのではないかと。
- ・仕事の効率化については、新たな仕組みづくりでコロナによってできた効率化もある。今後、定着させていくことが大変。
- ・十分に良い取り組みができていますので、今後も子どもたち、教員の健康も大切に組み込んでほしい。

(PTA 会長)・保護者アンケートを見て、満足していないという保護者が意外といると感じた。学校ではできていても家ではそういう姿を見せないということもある。教員との意識に差もあるのか。保護者側のニーズとしてとらえてほしい。

→(副校長) 学校で学んだことを地域や家庭で生かして行ってほしいという思いで一層連携をしながら行っていきたい。

②テーマ「仕事の効率化」「風通しのよい職場」についての御意見

(委員B)・細かいところまでやりたいという思いは仕方がないか。学園ではそのようなことはない。

(委員D)・人事異動の際に引継ぎをしっかりと行うことが大事。まずは読んで、それでも

分からなければ何度でも聞くこと。何でも話せることで、仕事はどんどん進んでいくと思う。研修もいくつがある中で1つでも見つけて深めていけるとよい。

- (委員C)・以前はアナログで、一生懸命な人ほどぎっしり書いてくる。まとめて書くことも事務能力で必要な力。スリム化し、最小限でよいことを伝えてきた。時間内で行うことは個人情報の管理にもつながる。
 - ・打ち合わせを1日の最後にして、そのまま帰るなどの工夫もした。
 - ・職員の意識については、個々に接して意見を聞き、それを全体に反映していくことや伝え続けることが必要。
- (委員A)・出退勤時刻をしっかり管理するようになった。出勤時に、帰る時刻のところに名前をはって意識付けをするようにした。
 - (副校長) この仕事があるから〇時に帰ると決めてあるのはよい取り組み。
- (委員E)・効率化がものすごく進んでいるわけではない。リモートになったことで、その仕組みづくりは大変だが、できてしまえば移動時間の短縮などのよいこともある。残業している人は、「したくてしている」のか「したくないのか」で、「言葉掛けが必要」か「仕事の分散化が必要」か、を見極めて対応。
 - ・パソコンスキルの高い人が仕事を抱えてしまいがち。全員がスキルを上げることで効率化になる。マウスを使わずキーボードだけで行うなど。

4 コミュニティースクールについて・お礼の言葉 (校長)

- ・コミュニティースクールは今年度の取組に掲げていたが準備が進められなかった。来年度、目的などを3回の学校評議員会で提案していきたい。
- ・どんなふうに地域とつながり発展していくか、熟議していく。
- ・学校運営協議会は学校評議員会の合議体へと発展させていくというスタンスで了解いただきたい。
- ・今日お話いただいたことは、すぐに役立つ内容が多くあった。参考にしていきたい。

5 閉会の言葉 (副校長)